
短 報

入学年度から始める3年次学士編入生への就職支援 —卒業生とのオンライン交流会を通して—

木村 理加 沖村 愛子 田中 加苗 小山田恭子

Early Employment Support for Third-Year Undergraduate Students of the Accelerated Bachelor of Science in Nursing (ABSN) Program at St. Luke's International University —Through Online Meetings and Interactions with ABSN Graduates—

Rika KIMURA Aiko OKIMURA Kanae TANAKA Kyoko OYAMADA

[Abstract]

Shortly after enrollment to the in-demand Accelerated Bachelor of Science in Nursing (ABSN) course which starts in the third year at our university, third-year undergraduate students need to immediately ponder their career paths and to start looking for employment after their graduation. As an early employment search activity, we held two online exchange meetings in August 2021 with five graduates of the ABSN course. From the answers in the questionnaire, there were some suggestions for improvements such as difficulties in asking personal questions in front of the group during the meeting, and to hold the meeting before August. In terms of the overall satisfaction, 94.1% of the students answered “very satisfied” and “satisfied” for the first online exchange meeting, and 90.1% for the second online exchange meeting. There were many useful opinions regarding the timing of finding employment peculiar to ABSN graduates, job hunting experience stories such as selection of employment destination, and diversity of career paths.

Herein, we report on the actual situation and future issues of online exchange meetings and interactions of current third-year undergraduate ABSN students with ABSN graduates.

[Key words] accelerated bachelor of science in nursing (ABSN) program, employment support, online interactions, ABSN graduates

[要 旨]

本学の3年次学士編入生は入学して間もなく始まる過密なカリキュラムと並行しながら、卒後の進路について熟考する間もなく就職活動を開始する必要がある。そこで早期から開始する就職支援活動として3年次学士編入制度の卒業生5名の協力のもと、2021年8月に卒業生とのオンライン交流会を2回開催した。アンケートの結果、オンライン開催では同級生の前で個人的な質問がしづらい、もう少し早い時期に開催して欲しかった、などの改善点も寄せられたが、全体の満足度は「非常に満足」「満足」との回答が1回目94.1%、2回目90.1%であった。学士編入生特有の就職活動の時期、就職先の選択などの就職活動体験談、進路の多様性について知ることが役立ったとの意見も多数あげられた。本稿ではオンライン交流会の実際と今後の課題について報告する。

[キーワード] 学士編入、就職支援、オンライン交流会、卒業生

I. はじめに

聖路加国際大学看護学部では、2017年度より看護学以外の学士号を取得した者を対象とする2年間の3年次学士編入制度が開設された。このコースは学士号取得者がセカンドキャリアとしてより短期間で看護師国家試験受験資格を取得することができる本邦で唯一の制度であり¹⁾、定員の30名に対し志願者数は2017年度65名から2021年度122名と、年々増加傾向にある²⁾。

本制度は本学独自のカリキュラムであり、短期間で急速に講義・演習・実習が展開する過密なスケジュールとなる³⁾ため、学生が就職活動に費やすことができる期間には制限がある。また、就職活動を開始する時期は入学年度である3年次の8月からインターンシップへの参加や病院説明会に参加することが多い。この時期は主に看護の機能領域（基礎看護学等）を学んだ段階で、実習や専門科目の履修を通して多様性のある看護師の働き方を学ぶ間もなく就職活動を開始しなければならないことになる⁴⁾。さらに、学生の年齢はおおよそ20代～40代と幅広く、子育て中の学生、他分野でキャリアを積んだ学生から就職が初めての学生まで、多種多様なバックグラウンドをもつ学生が在籍している。本学3年次学士編入生の卒業生を対象としたインタビュー調査によると、在学時の就職活動には、【既存の就活体験とのギャップに気づく】【急性期病院で働き始めることが重要という認識】【スムーズに就職できるという認識】【限られた期間での就職活動】【年齢による就職の壁を感じる】【年齢による就職困難な現実への不安】【家庭との両立という具体的なイメージ】という特徴がある⁵⁾。そのため学部4年制コースの3年生を対象とした就職活動に関する情報だけでは不十分であり、3年次学士編入生特有のニーズに合わせた就職支援が求められる。

これまで3年次学士編入生に行われてきた就職支援として、2017年度は3年次学士編入制度開設前の編入制度である2年次学士編入制度の卒業生と在校生の交流会「きらり☆キャリア・カフェ」⁴⁾が2017年8月より2018年2月まで全4回開催、2019年度は外部業者による学士向け就職ガイダンス³⁾、2020年度は学士編入卒業生からの就職体験談を聞くオンライン交流会が2020年12月と2021年2月の2回行われた。これら過去の就職支援活動実績を踏まえ、今年度はより早い時期に3年次学士編入制度の卒業生とのオンライン交流会を開催することを企画した。さらに、これまでも学士編入専任教員が模索しながら様々な形態で就職支援活動が実施されてきたが、その支援システムが未だ確立していない。そこで、就職支援活動に対する学生の意見や反応を明らかにすることは、就職支援方法の在り様について検討する上での評価指標となるため重要であると考えた。

本稿では、3年次学士編入生の3年生に対し開催した卒業生とのオンライン交流会の実践と事前・事後アンケート結果について報告を行い、今後の課題について述べる。

II. 卒業生とのオンライン交流会の概要と実際

1. 卒業生とのオンライン交流会の概要

1) 卒業生への協力依頼

卒業生への依頼は、6月中旬および7月下旬～8月初旬に開催されたオープンキャンパスにて本学3年次学士編入制度の卒業生として参加した3名に対し、教員より直接協力を依頼し承諾を得た。さらに卒業生に対し、それぞれ同級生にも交流会について情報共有を依頼し、同級生の参加を募った。

2) 卒業生協力者の概要

卒業生5名の協力を得た。卒業生の概要を表1に示す。

表1 卒業生の概要

卒業年度	就職・進学先
1 2018（1期生）	大学病院（都内）
2 2020（3期生）	大学病院（都内）
3 2020（3期生）	市中病院（都内）
4 2020（3期生）	訪問看護ステーション（都内）
5 2020（3期生）	大学院保健師コース進学

3) 開催日程および開催方法

開催時期は8月中旬～9月初旬の夏季休暇中で調整を行った。卒業生の予定を確認して開催候補日を決め、そのうちの参加可能な日についてwebアンケートで学生の都合を調査した。結果、参加を希望する学生がいずれかに参加できるよう、8月中旬と下旬の2回に開催することとした。両日とも平日であり、1回目は18時～19時、2回目は17時～18時と設定した。開催方法はweb会議システム（Zoom）を使用した。

4) 就職活動に関する事前アンケート『卒業生に質問したいこと』

学生に日程調整のためのアンケート（上記）を行うと同時に「卒業生に質問したいこと」について自由記載欄を設けて質問した。31名中27名より回答を得た結果、「就職先の選び方：9件」「就職試験：7件」「就職試験対策：6件」「就職活動全般について：5件」「40代の就職について：5件」「進学について：5件」「就活体験のエピソード：4件」「就職活動の開始時期：3件」「就職後に3年次学士編入制度以外の同期と比較して感じたこと：3件」「就職後に役立ったこと・困ったこと：3件」「内定時期：1件」との回答があった。

2. 卒業生とのオンライン交流会の実際

1) 交流会の流れ

オンライン交流会の参加者数は、在学生 1 回目18名、2 回目16名で、対象学生31名中26名がいずれかの会に参加していた。卒業生は両日とも4名の参加があった。交流会の実際の流れについて表2に示す。

表2 交流会の流れ

10～15分：卒業生自己紹介 + プレゼンテーション 3名	
1 回目	2 回目
40分：質疑応答	
参加者全員	2 グループ
20分 就職活動	1G：看護師 1 名
10分 大学院進学	大学院生 1 名
10分 学生生活	2G：看護師 2 名
5 分：終了の挨拶	

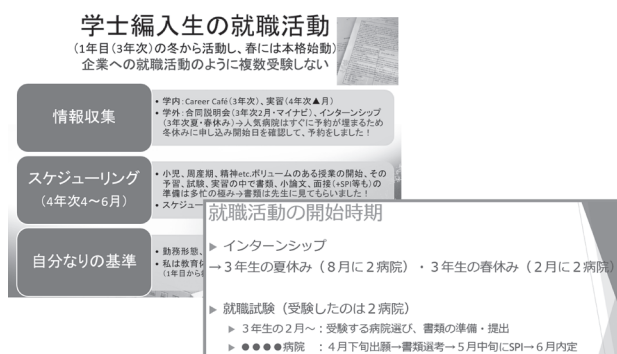


図1 卒業生プレゼンテーション（一部抜粋）

2) 実際の話題

事前アンケートにて学生から挙げられた就職活動に関する疑問や就職後の働き方について、卒業生から提供された情報は主に以下の通りであった。

(1) 就職活動について

①就職先の探し方

一般的な就職活動と異なる、就職先として候補に入れる選択基準、エントリー数などについて説明があった。インターンシップ申し込みについて、早期に予約満員となりやすい傾向にある病院や、実際の申し込み時期、インターンシップ参加時に質問をすると良いと感じた点などが共有された。就職先選びの基準について、各卒業生は生活リズムと交替勤務制との兼ね合い、教育体制などを例にあげ、アドバイスしていた。特に自分にとって大切だと思うことや、就職後にどのような生活をしたのか具体的なイメージを考えて活動することを提案していた。育児中の人々の就職先の検討の視点としては、通勤距離、勤務スケジュール、時短勤務制度を利用している看護師の有無などが挙げられた。また、入職後数年はライフワークバランスをとることが難しい時期があり、家族や支援してくれる人の理解を得ておくことが準備として必要で

あるという情報が共有された。

②就職活動のスケジュールリング

3年生の2～3月ごろから開始し、9月頃までには内定が出るという情報が伝えられた。試験対策（小論文やエントリーシート、SPI）をする時期については、3年次の春休みがまとまった時間が取りやすいと卒業生全員が述べていた。

③就職試験の実際

就職時の面接試験について、学士編入生の特性に焦点化した質問として、年下から指導を受けることへの思い、個人的なライフプランについても面接官から聞かれたこと、また、この学生を今の状況で採用した際にうまくやれそうか、謙虚さを兼ね備えているかといった視点で見られていると感じたといった意見が挙げられた。

④卒業生の就職先の多様性

卒業生からは、大病院だけではない多様な場所で卒業生が活躍していること、卒業生の中には新卒時は大病院で働いていたが、すでに別の規模の医療機関に転職している人もいたといった情報が提供された。

(2) 進学について

進学を経験している卒業生から、臨床看護師としての経験を積んで進学したメリットとデメリットについて語られた。保健師コースへの進学を検討している学生による、大学院修了と資格取得後の将来像が描きづらいという相談に対しては、保健師としての就職先は行政機関、産業機関など複数あるという情報が実際の卒業生の進路を例に挙げて提供された。

(3) 就職後について

学士編入修了生だからこそその就職後の経験についても卒業生から話題提供された。内容は、同僚は学士編入修了生ではないため、同僚が大学で学習した内容を自分は学んでいなかったということや、前職と比較して職場風土の違いから戸惑うこともあるが個人の捉え次第であるということ、いずれも卒業生が現場でどのように対処しているのかまで伝えられた（図2）。

最初は“すべてを受け入れる”

(リアリティショックよりも比較対象の存在)

私(社会人経験者)は比較対象があることに1番、苦しみました
あれ？ うん？ おかしくない？ 会社だったらこんなんだけどな...などが
たくさんあります(会社にもありますが)
⇒とりあえず「それはそれ」として受け止めて！
友人、同期、理解者にはストレートに聞いてもらう！



今日、皆さんのお役に少しでも立てたら嬉しいです
いつか●●でお会いできることを楽しみにしています

就職後に感じたこと(学士コース卒業生として)
▶ 4年制コース卒業の同期・他大学卒業の同期→学士だから特別に何かあるということなく、助け合って就業中
▶ 4年制コース卒業生の先輩から「学校でやったよね？」と言われたことで、学習した記憶がない項目が時々、「4年制コースだと学校で習うんですね。」と驚いて後で調べ

図2 就職後の体験に関するスライド

Ⅲ. 学生からの評価と感想

全2回の交流会後には参加した学生に感想や意見をフィードバックしてもらう目的で、回ごとにwebアンケートへの協力を依頼した。アンケートは交流会の運営や内容への5段階評価（「非常に満足」「満足」「ふつう」「やや不満」「不満」）項目と、意見や感想の自由記載項目で構成した（表3）。アンケートの回収は、1回目分は参加者18名中17名、2回目分は参加者16名中11名だった。

表3 交流会後のフィードバックアンケート項目

質問項目	回答方法
1 交流会の開催時期（夏季休暇中）	
2 交流会の所要時間（約1時間）	5段階評価
3 交流会の開催方法（Zoom）	（1回目：回答必須、2回目：回答任意）
4 参加した卒業生からの情報量や内容	
5 全体的な満足度	
6 特に役立った点	自由記載（回答必須）
7 改善した方がよい点	
8 その他の意見・感想	自由記載（回答任意）

1. 交流会の開催時期などの5段階評価について

学生からの評価について1回目と2回目それぞれで単純集計を行った（図3）。

2回目の交流会の所要時間については「非常に満足」と「満足」と回答した学生の合計が72.7%と低めであったが、他項目はすべて「非常に満足」「満足」と回答した

学生の合計は90%以上であった。「非常に満足」「満足」と回答した学生の合計が100%だったのは、1回目の卒業生からの情報量や内容および2回目の開催方法であった。全体を通して「不満」の回答は無かったが、「やや不満」の回答が、開催時期（1回目：1件、2回目：1件）と所要時間（2回目：2件）でみられた。

2. 交流会のなかで特に役立った点について

アンケートで最も多かったのは、「就活の具体的なスケジュールが聞けたこと」「リアルな就職活動をうかがえたこと」が役立ったという意見や、「病院選びのポイント」「インターンシップで見るべきポイント」「就職面接で聞かれたこと」「受験した病院数」などの具体的な就活体験談を聞けたことが役立ったという意見であった（1回目：10件、2回目：5件）。また、「色々な病院で活躍されている先輩方のお話を聞くことができた」「様々な立場の意見を聞くことができた」「進路の選択の幅が広がった」「大学病院に行くことが全てじゃないと聞けたこと」といった卒後の進路が多様であることに気づけたことが良かったと振り返った学生もいた（1回目：4件、2回目：3件）。

他には「学士コースだからこそその悩みが聞けた」「先輩だからこそ正直な話を聞くことができた」といった3年次学士編入制度の経験者に話を聞けたことに意義を感じた学生や（1回目：2件）、就職活動に関して「漠然とした不安」があったが、先輩が苦勞しながらも「それぞれ

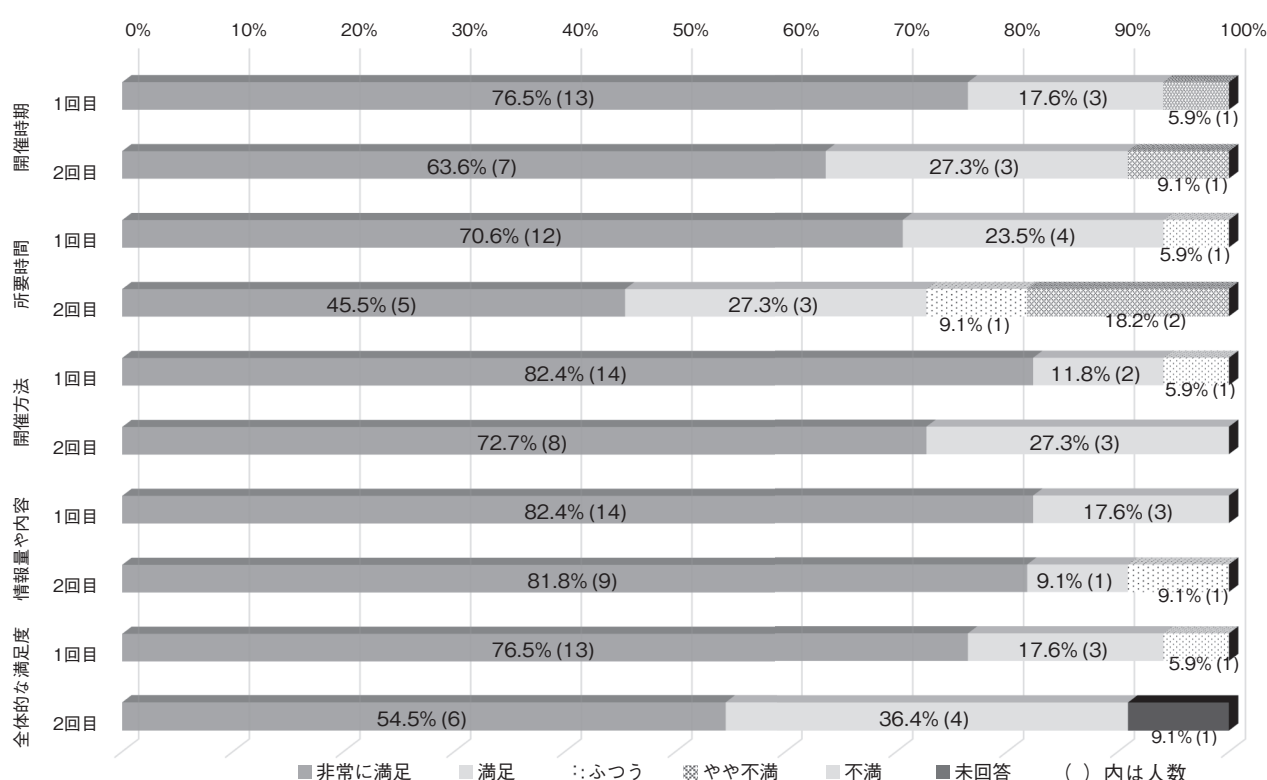


図3 学生からの交流会へのフィードバック結果

地道に看護師としての道を歩んでいらっしゃる様子を知るとても良い機会」だった、あるいは「勇気が得られた」「自信を持てた」「希望を捨てなくて良いと言ってもらえたこと」など前向きになれた、励まされたと感じた学生もいた（1回目：3件，2回目：1件）。

2回目のアンケートでは、1回目とは参加卒業生や提供した話題が異なったこともあり、「また別の方のお話を聞けた点」「進学についてうかがえたこと」「4年生前期の忙しさを今の時期に知れたこと」「子育てしながらでも急性期病院で働くことができることを知れたこと」「国試の勉強を始める時期を知れたこと」といった意見もあった（各1件）。

3. 交流会の改善点について

交流会の改善点について、最も多かった意見は開催時期についてであった。そのほとんどが、夏季休暇中（8月）に病院に関する情報収集やインターンシップへの参加を検討するため今回よりも早い時期が良かった、夏季休暇の前半に開催されると良かったというものであった（1回目：6件，2回目：3件）。また、休暇以外の時期に開催してほしいという希望もあった（2回目：1件）。

開催所要時間については、「1.5時間開催」などもう少し長い時間への希望が見られた（1回目：2件，2回目：1件）。

開催方法については、1回目のアンケートにて、「クラスメイトが大勢いる前では話しにくい」との意見があったため（1件）、2回目ではグループ別ミーティングの機能を使用し参加者を半分にして8名ずつの交流の時間を持ったが、「各グループ5～6名」にならないと「個人的な質問はできそうにない雰囲気」だったとフィードバックがあった（2回目：1件）。また、「今はZoomが最善で、安心な方法だ」と思うが、状況が許せば「対面開催」になった方がより深く話を聞けるといった意見もあった（1回目：2件，2回目：1件）。

話題の内容については、「学士だからこその進路選択におけるポイントが多く聞けると嬉しい」、「就活後の話」や「育児・介護との両立について」さらに聞きたかったという意見があった（1回目：各1件）。育児との両立に関しては、「卒業後の進路先について今までどのようなバリエーションがあったか」についても聞きたいという意見が2回目にも見られた（1件）。

4. そのほかの意見・感想について

任意回答としていたが、2回を合わせて20件の回答が得られた。ここでは上記の「2. 交流会のなかで特に役に立った点について」でも挙げられていた、就職活動のイメージ化に繋がった、卒後の進路や目指す看護師像は多様であることに気づいた、3年次編入生だからこその

不安・疑問を相談できた、就職活動に前向きになれた、肩の力が少し抜けたといった内容が改めて述べられていた。定期的に開催してほしいという希望や、育児との両立について病院説明会では聞きづらく苦戦しているという悩みも記載されていた。

5. 学生からの評価と感想に関するまとめ

学生が役に立ったと回答した点が就職活動の非常に具体的な内容であったことから、3年次学士編入という独特の科目スケジュールのなかで、どのタイミングでどの程度の就職活動を組み込んでいくかをイメージ化する上での情報がとにかく不足しているという現状がうかがえる。3年次学士編入制度経験者に話を聞けたことへの意義を学生が感じていたこと、「クラスメイトが大勢いる前では話しにくい」という意見、交流会によって卒後の進路の多様性を知り前向きになれたという意見などから、教員にも同級生にもなかなか相談できず学生それぞれで疑問や焦りを抱えこんでいたことが推察される。

学生の不安軽減のため、学生からの意見にもあったように、次年度からは前期科目がある程度落ち着いた夏季休暇直前などに情報提供の機会を設けることを検討する必要がある。また、所要時間や開催方法についても検討の必要があり、1.5時間開催にする、可能な範囲で対面開催、web会議システムでの質疑応答では4名程度の小グループにする、テーマ別の開催（進学相談の回、就職相談の回など）にするなどが挙げられる。加えて、新卒時から育児・介護と看護師業務を両立することへの懸念は、3年次学士編入制度出願資格に年齢制限を設けていないことを踏まえると普遍的なものと考えられるので、より学生の不安軽減に貢献できるような情報を提供していく必要がある。

6. 交流会開催後の学生の反応

交流会の後、交流会に参加した学生から就職に関して個別相談が立て続けに4件あった。そのうち2件は希望する専門領域に就職した卒業生へ直接相談できるよう教員が仲介となり調整した。1件は交流会に参加した卒業生の勤務した病院に興味があり、実情や就職試験について知りたいという内容であった。それに対して教員を通して卒業生より得た情報を提供しつつ、学生側の意向と検討中の就職先とのマッチングについて検討を行った。もう1件は興味のある専門領域の道に進むための就職先の検討に関する内容であった。それに対し、学士編入専任教員が学生の意向を確認しつつ、様々な選択肢に関して検討できるよう情報提供を行った。

このような相談が増加した要因として、交流会を通して進路について考えるきっかけになったこと、就職活動のイメージが具体化したこと、夏季休暇中にインターン

シップへの参加や就職先について検索するタイミングと重なったこと、教員の就職支援への姿勢が学生に伝わったことが考えられる。

IV. 今後の課題と展望

卒業生との交流会は9割以上の学生が満足感を得られる結果となったが、時間内にグループ別ミーティングルームを自由に行き来し難い雰囲気であったこと、教員や他学生に聞かれたくない内容もあるため話しづらい、などオンライン開催ならではのデメリットも明らかになった。今年度は新型コロナウイルスの影響下でオンライン開催を余儀なくされる状況であったが、遠方に在住する卒業生や多忙な卒業生であってもスケジュールの合間を縫って参加可能であったというオンライン開催のメリットと、対面開催のメリットを活かすことができるよう、開催方法（オンライン／対面）を適宜選択するなどの工夫をする必要がある。また、録画について今回は未実施であったが、オンライン開催の場合は日程上不参加となる学生でも情報が得られるよう、個人情報管理方法と共に検討を重ねる必要がある。

卒業生は5名中4名が3期生と偏りがみられていた。要因として、教員と卒業生とのコネクション不足や周知のタイミングが遅かったため参加者が限定されたことが考えられる。学生の意見からも、夏季休暇中にインターンシップや病院説明会に参加することを考慮して夏季休暇前のタイミングでの開催希望があることが明らかになった。そのため、入学年次前期終了までに就職活動に関する大まかなスケジュールを把握し、各自が活動にとりかかることができるよう支援することが望まれる。これにより、特に社会人経験のある学生は、自立性を活かした活動の足がかりが早期に得られると考える。

学士編入生にはそれぞれのキャリアを活かし、ライフスタイルに合わせた多様性のある就職先に関する情報提供が求められる。学士編入専任教員がそれぞれ専門外の領域に関しても情報提供が可能になるよう、専門分化した領域やキャリアパスに関する知識をアップデートする必要がある。本学の3年次学士編入制度は今年度で5年目であり、様々な進路に進んだ卒業生から情報を得ること、そして就職して数年経過した卒業生から就職後のリアリティを伝えることが可能になった。卒業生とのコネクションを拡充させ、幅広い情報提供が行えるよう準備を行う必要がある。

さらに、今後はより学生のニーズに沿った内容で継続的に交流会を開催するために、学生の主体性を活かした援助を行う必要がある。一例としてまず、入学後の早い段階で教員主催による卒業生および4年生との交流会を行うことで、最初のきっかけを提供する。その後教員は、卒業生との人脈づくりに関する支援や、多くの卒業生を招いて講演などのイベントが開催される本学のホームカミングデーへの参加など、学生一人一人がニーズにあった情報を主体的に得られる場をもつことができるよう働きかけることで、学士編入生の強みである自立性を活かした就職支援体制を構築できると考える。

V. おわりに

本稿では、3年次学士編入3年生を対象とした就職支援のための卒業生とのオンライン交流会について、その内容と学生からの事前・事後アンケート結果について報告した。

今回明らかになったオンライン開催でのメリット・デメリットを念頭に置きつつ、学士編入生の主体性を活かした支援方法になるよう、今後の運営方法を検討していく。

謝 辞

本交流会に協力いただきました3年次学士編入生の卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 長松康子, 佐居由美, 五十嵐ゆかりほか. 学士編入2年制コース開設に至るプロセス. 聖路加国際大学紀要. 2018; 4: 98-102.
- 2) 聖路加国際大学ホームページ [Internet]. <http://university.luke.ac.jp/admission/entrance/index.html/> [参照 2021-09-28]
- 3) 森田誠子, 猪飼やす子, 小布施未佳ほか. 聖路加国際大学3年次学士編入制度: 開設3年目を迎えて. 聖路加国際大学紀要. 2020; 6: 70-5.
- 4) 下田佳奈, 川端愛, 斎藤あやほか. 実践報告: 聖路加国際大学3年次学士編入制度-開始から半年間のプロセス-. 聖路加国際大学紀要. 2018; 4: 27-32.
- 5) 小布施未佳, 森田誠子, 猪飼やす子ほか. 3年次学士編入制度における就職支援体制の構築に向けたインタビュー調査. 聖路加国際大学紀要. 2021; 7: 20-6.